

表Ⅱ

	実施日	内容・講師	参加人数
平成25年度	平成25年5月9日(木)	「子どもの発達とその応援」 講師：南相馬市立総合病院 安藤幸典氏(小児科医師)	30名
	平成26年1月24日(金)	「支援を要する子どもへの対応について ～衝動性のある子どもとSOSの出せない子どもを中心に～」 講師：横浜市総合リハビリテーションセンター 尾崎浩子氏	38名
	平成26年2月7日(金)	テーマ：療育機関の利用と内容について ①療育の法的根拠と利用方法について 相談支援相馬事業所 四條拓哉氏 ②児童発達支援の内容について のびっこらんど愛愛 志賀一美氏 ③放課後等デイサービスの内容について じゅにあサポート「かのん」 新妻直恵氏	46名
	平成26年2月26日(水)	テーマ：支援を要する児童の個別教育支援計の作成について ～小学校へのつなぎを見据えて～ 講師：指導主事 大和田浩氏 相双教育事務所学校教育課	35人
	平成26年3月15日(土)	テーマ：「子どもの愛着形成を促すためには」 講師：大上 律子氏(臨床心理士) NPO法人 西神戸トラウマカウンセリングルーム	24名
平成26年度	平成26年5月1日(木)	テーマ「困っている子供たちー理解と支援ー」 講師：南相馬市立総合病院 小児科長 安藤幸典氏	59名
	平成27年1月9日(金)	テーマ：就学指導の現状と就学時の効果的な連携について 講師：南相馬市教育委員会 学校教育課 指導主事 鈴木 和一郎氏	33名
	平成27年1月21日(水)	テーマ：不器用なお子さんへの支援について ～感覚統合の視点から～ 講師：作業療法士 岸本 光夫氏	
	平成27年2月16日(月)	テーマ：子どもが力を発揮できる環境の設定(構造化)について ～合理的配慮の視点から～ 講師：福島県養護教育センター 指導主事 江田 貴洋氏	

『人材の供給と育成』に関するアンケート

記入日 平成 年 月 日

ご所属・職名

ご記入者名

アンケートについて

発達障害に関する“気づき（発見）”と“支援”に関わる職員の人材育成に関する質問です。本調査の詳細につきましては、研究計画案をご参照ください。質問ごとに選択式、自由記述の形式となります。ご無理のない範囲でお答えください。また、後日、担当者より不明な点などについて問い合わせをさせていただく場合もございますが、ご了承いただければ幸いです。問い合わせ不可の場合は、その旨ご記入ください。

I. 人材供給について

1. 母子保健、発達障害に関わる職員についてお伺いします。組織図がありましたら、添付願います。

① 発達障害のお子さんに関わるすべての所属名と、職種、雇用形態、人数、をお教えてください。

所属名	職種	雇用形態	人数

II. 人材育成について

1. 現在のご所属の中で、“人材育成”についてのイメージをお聞かせください。

[] 中のあてはまるものすべてに○を付け、その他についてはご記入ください。

[研修会 ・ 事例検討会 ・ カンファレンス ・ 勉強会 ・ 職場内での啓発 ・ 他機関との連携

・ 人事交流 ・ 現場経験 ・ 先輩の指導 ・ その他() () ()]

2. 人材育成に関する予算についてお聞かせください。

① 今年度の発達障害の気づきと支援に関する人材育成のための予算額とその内容についてお聞かせください。(可能な範囲で結構です。)

部署名	予算額	内容
例) 母子保健係	100,000	研修会参加 (旅費、参加費書籍代…等)
例) ○○課	150,000	研修会開催 (講師旅費、謝金…等)

② ①の予算額は、全体予算額で、又は部署予算額で、前年度と比較して変化はありましたか。

いずれか選択してください。可能な範囲で結構です。

[全体で () 部署で / 増加 (10%以上・10%未満) ・ 減少 (10%以上・10%未満) ・ 変更なし ・ その他 ()]

Ⅲ. 研修会について

1. 発達障害の気づきと支援に関する研修会への参加について、研修名、参加者の職種と人数についてお答えください。(関連資料の添付でも結構です)

研修名	所属	職種	人数
		保健師 心理士 言語聴覚士 保育士 ()	
		保健師 心理士 言語聴覚士 保育士 ()	

		保健師 心理士 言語聴覚士 保育士 ()	
--	--	-----------------------------------	--

※ 記入欄が足りない場合は、別紙にご記入願います。

2. 研修会参加後の他の職員への伝達するための機会について（伝達研修について）お聞かせください。

① 参加されるメンバー構成

[所属部署内 ・ 同じ職種のみ ・ 機関の希望参加者すべて ・ その他
()]

② 実施時期

[研修会終了後1週間以内 ・ 1か月以内 ・ 半年以内 ・ 1年以内 ・ その他
()]

3. 事例検討会についてお聞かせください。

① 事例検討会は実施されていますか。

[はい ・ いいえ ・ その他 ()]

② 「はい」の場合、お答えください。

事業名、回数、参加されている方の職種、スーパーバイザーまたは講師の有無とその職種をお教えてください。

[事業名：]
[回数： 参加者の職種：]
[スーパーバイザー（講師）： 有 ・ 無 (職種：)]

4. カンファレンスについてお聞かせください。

① カンファレンスは実施されていますか。

[はい ・ いいえ ・ その他 ()]

② 「はい」の場合、お答えください。

事業名、回数、参加されている方の職種、スーパーバイズまたは講師の有無とその職種をお教えてください。

[事業名：]
[回数： 参加者の職種：]
[スーパーバイザー又は講師： 有 ・ 無 (職種：)]

7. 人材育成における課題についてご記入ください。

・ご自由にご記入ください。

8. 県との連携についてお聞きします。

これまでの県主催の研修・事業において、発達障害の気づきと支援に関する人材育成に役立つと感じる取り組みがありましたら、ご記入ください。

・ご自由にご記入ください。

9. 発達障がい者支援センターとの連携についてお聞きします。

これまでの発達障がい者支援センターの研修・事業において、発達障害の気づきと支援に関する人材育成に役立つと感じる取り組みがありましたら、ご記入ください。

・ご自由にご記入ください。

10. 人材育成に関する取り組みにおいて、効果測定（どれくらい効果があったか等）は行われていますか。

[はい ・ いいえ ・ 検討中 ・ その他 ()]

・「はい」と回答の場合は、お答えください。どのように取り組まれていますか。具体的にお答えください。

・ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））
発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価

分担研究報告書

岐阜県多治見市の

発達障害児の支援体制の特徴に関する研究

分担研究者 関 正樹 （大湫病院、土岐市立総合病院 精神科）

研究協力者 伊藤 友子 （大湫病院）

栗林 英彦 （県立多治見病院 精神科）

荒川 武 （県立多治見病院 小児科）

元吉 史昭 （土岐市立総合病院 小児科）

中野 正大 （土岐市立総合病院 小児科）

吉川 徹 （愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科）

研究要旨：発達障害の早期発見と早期支援の重要性が強く叫ばれるようになり、各地域で具体的な取り組みが推進されつつあるが、その進捗には地域格差も大きい。特性の異なる自治体における、発達障害の支援ニーズの把握とともに、地域の特性に応じた発達障害支援システムの現状を調査し、具体的な地域支援のあり方についてモデルを示す事を目的とした調査研究の一環として、前年度に引き続き、岐阜県多治見市において、教育機関、医療機関における有病率調査を行った。多治見市においては、広汎性発達障害の小学 1 年、2 年児童における医療機関把握率はそれぞれ、1.79%、3.24%であり、小学 6 年児童、中学 1 年では 2.11%、2.74%であった。教育機関の把握率と医療機関における把握率には差が認められたが、年代があがっても、把握率は概ね変化せず、教育機関と医療機関の把握率の差にも大きな変化は認められなかった。多治見市においては、比較的早期から、医療機関受診を含めた支援がなされている傾向が示唆された。

A. 研究目的

発達障害の早期発見と早期支援の開始の重要性が強く叫ばれるようになり、各地域において具体的な取り組みが推進されつつあるが、その進捗には地域格差も大きい。また、大都市と小規模都市では、おのずとできることも異なってくる。従って、特性の異なる

自治体における発達障害の支援ニーズを把握し、発達障害の支援システムの現状について調査を行い、地域の特性に応じた発達障害の支援システムのモデルを提示することには大きな意義がある。

その一環として、前年度に引き続き、多治見市における発達障害の支援ニーズに関する調査を疫学的手法を用いて行うことが本

調査研究の目的である

B. 研究方法

1. 発達障害の支援ニーズに関する調査

本年度も前年度に引き続き、教育機関(各学校)が発達障害について把握している、もしくは疑いを持っている子どもたちがどの程度存在するかを調査するために、教育機関(市内全小中学校、市内在住の対象の子どもが通う特別支援学校)にアンケート調査を行った(回収率は100%)

さらに、当地域の発達障害診療を行っている医療機関である、大湫病院、土岐市立総合病院、県立多治見病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院において、前年度と同様の小学1年生及び小学6年生の有病率を発達障害全体及び主たる発達障害の種別を調査するため、診療録等より診断名、診断を受けた年齢、IQ、重複障害の有無について調査を行った。また昨年度調査を行った居住コホートの追跡調査を行う目的で、小学2年生、中学1年生においても同様の調査を行った。

(倫理面への配慮)

教育機関におけるアンケート調査においては、個人を特定し得ることのないように数的情報のみを取り扱った。

医療機関における診療録調査においては、一般診療行為から得られる臨床情報のみを診療録等を介して収集、利用することが目的であり、倫理的な問題は生じない。各医療機関で集めた個票は連結可能な状態で匿名化した後に集計を行った。

また、インフォームド・コンセントは取らないが、研究の意義・目的・方法、問合せ先等を記載したポスターを外来に掲示し、情

報の公開を行った。

さらに、本研究を行うにあたって、各医療機関における倫理委員会の承認を得た。

C. 研究結果

1. 発達障害の有病率調査

表1

多治見市 小学1年 N=952	教育機関 ()内は教育機関における診断把握率	医療機関
発達障害全体	9.77	3.26
広汎性発達障害	3.46(2.0)	1.79
多動性障害	2.42(0.21)	0.21
コミュニケーション障害	1.35(0.52)	0.52
精神遅滞	1.57(1.1)	0.73
その他	0.21(0)	0.10

表1は多治見市における小学1年児童の有病率調査の結果をまとめたものである。多治見市において、市内各小学校、対象となる特別支援学校におけるアンケート調査の結果(回収率100%)、教育機関において広汎性発達障害を疑っている、もしくは、診断を把握している児童の居住コホートにおける割合は3.46%であった。多動性障害も2.42%、精神遅滞1.57%であった。医療機関を受診しない理由としては、「必要性を感じない」が突出して多かった。

医療機関における診療録調査では、広汎性発達障害は1.79%、多動性障害は0.21%であった。広汎性発達障害と診断されている児童の70.6%は精神遅滞を併発していなかった。発達障害全体で見れば、多治見市の小学1年児童の3.26%が就学前に医療機関で何らかの発達障害の診断を受けていた。

表 2

多治見市 小学2年 N=955	教育機関 ()内は教育機 関における診断 把握率	医療機関
発達障害全体	11.51	5.66
広汎性発達障害	3.76(2.7)	3.24
多動性障害	3.35(0.7)	1.04
コミュニケーション 障害	0.52(0.3)	0.63
学習障害	1.57(0.3)	0
精神遅滞	1.67(1.0)	0.42
その他	0.63(0.3)	0.33

表 2 は多治見市の小学 2 年児童における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 3.76%、多動性障害は 3.35%、学習障害は 1.57%であった。医療機関受診に至らない理由は「必要性を感じない」が突出して多かったが、医療機関の「受診の予約がとれない」「保護者に伝えるか悩んでいる」というものも見られた。医療機関における診療録調査では、小学 2 年児童の 3.24%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、1.04%が多動性障害と診断されていた。広汎性発達障害と診断されている児童の 67.7%は精神遅滞を併発していなかった。発達障害全体としては教育機関では、11.51%が何らかの発達障害として把握されており、5.66%が医療機関で診断を受けていた。

表 3 は多治見市の小学 6 年児童における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 3.33%、多動性障害は 1.41%、学

習障害は 0.91%であった。医療機関の受診に至らない理由としては「必要性を感じない」が突出して多かったが、「家族の理解が得られない」や「保護者に伝えるべきか悩んでいる」という回答も散見された。医療機関における診療録調査では、小学 6 年児童の 2.11%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、0.40%が多動性障害と診断されていた。広汎性発達障害と診断されている児童の 76.2%が精神遅滞を併発していなかった。発達障害全体としては 7.57%が教育機関で把握されており、3.41%が医療機関で診断を受けていた。

表 3

多治見市 小学6年 N=991	教育機関 ()内は教育機 関における診断 把握率	医療機関
発達障害全体	7.57	3.41
広汎性発達障害	3.33(1.7)	2.11
多動性障害	1.41(0.4)	0.40
コミュニケーション 障害	0.50(0.1)	0.10
学習障害	0.91(0.2)	0.10
精神遅滞	1.11(0.5)	0.40
その他	0.30(0.3)	0.30

表 4 は多治見市の小学 6 年児童における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は 2.54%、多動性障害は 1.12%、学習障害は 0.83%であった。医療機関受診をしていない理由としては「必要性を感じない」が最も多かった。医療機関における診療録調査では、小学 6 年児童の 2.51%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、

0.84%が多動性障害と診断されていた。発達障害全体としては4.47%が医療機関で診断を受けていた。

表4は多治見市の中学1年生における発達障害の有病率調査の結果をまとめたものである。教育機関において、広汎性発達障害を疑っている、もしくは診断を把握している児童は4.80%、多動性障害は1.57%、学習障害は1.97%であった。医療機関の受診に至らない理由は「必要性を感じない」が突出して多かった。医療機関における診療録調査では、中学1年生の2.74%が医療機関で広汎性発達障害と診断されており、1.46%が多動性障害と診断されていた。広汎性発達障害と診断されている生徒の46.4%が精神遅滞を併発していなかった。発達障害全体としては教育機関において10.2%が把握されており5.11%が医療機関で診断を受けていた。

表4

多治見市 中学1年 N=1019	教育機関 ()内は教育機関における診断把握率	医療機関
発達障害全体	10.20	5.11
広汎性発達障害	4.80(3.04)	2.74
多動性障害	1.57(0.58)	1.08
コミュニケーション障害	0.49(0.20)	0.20
学習障害	1.97(0)	0.10
精神遅滞	1.18(0.88)	0.69
その他	0.20(0)	0.30

D. 考察

1. 多治見市における広汎性発達障害の有病率について

本年度の調査では、多治見市の小学1年児童において、教育機関における発達障害全体の把握率は9.77%であるのに対して、医療機関における把握率は3.26%とおおよそ1/3が診断にまで至っていると言える。小学校2年、小学校6年、中学1年の調査では、教育機関で把握されている児童、生徒のおおよそ1/2が診断に至っている傾向が示唆される。このことから、多治見市においては、比較的早期から医療機関受診に至りやすい傾向が示唆される。

医療機関受診に至らない理由として、突出して多く見られるのは、「受診の必要性を感じない」というものである。ここからは「気になる児童、生徒」として学校は既に把握しているが、特別支援教育や通常学級における配慮を通じて、何とか支援が成功している様子が透けて見える。

しかし、「保護者に伝えるべきか悩んでいる」という回答もいくつか見られており、このような現場の教師を支援するシステムの必要性が示唆される。多治見市においては、現在、インクルーシブ教育が推進されており¹⁾、多くの発達障害を有する児童、生徒が通常学級に在籍している。そのため、現場の教師を支援するような巡回支援の取り組みもなされつつある。今後、巡回支援が軌道に乗った際に、このような声がどう変化していくか、来年度もフォローアップを継続したい。

診断の内訳に目を向けてみると、広汎性発達障害の医療機関における有病率は小学1年時こそ1.79%と2%を下回っているが、その他の学年では2%を超えており、中でも小学2年児童では3.24%となっている。これらは最近の広汎性発達障害の有病率のデ

ータである、韓国における有病率(2.64%)²⁾とほぼ同様もしくは高い傾向のある数値であった。

また、併存症に目を向けてみると広汎性発達障害を有する児童の多くが精神遅滞を併発しない傾向が、多くの学年で示されており、このことから多治見市においては精神遅滞を伴う中核群の自閉症のみならず、非典型的で症候が薄い広汎性発達障害群も比較的早期から検出されていることが示唆される。

E. 結論

岐阜県多治見市における発達障害の支援ニーズを検討するために、教育機関における発達障害の把握に関するアンケート調査を行うとともに、医療機関における診療録調査を行った。

多治見市においては、発達障害を有する児童、生徒は比較的早期から教育機関、医療機関において把握、支援が開始される傾向にあった。医療機関における併存症調査からは、非典型的で症候の薄い事例も比較的早期から検出されていることが示唆された。医療機関の受診を必要とせず、教育の中で適応できている児童、生徒も多いものの、現場の教師の中には「保護者に伝えるべきか悩んでいる」生徒を抱えている教師も存在する。今後、適切にインクルーシブ教育を推進していくためにも、多治見市においては、そのような教師を支援していくシステムの整備、成熟が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

H. 参考文献

- 1) 関 正樹:岐阜県多治見市の地域特性と発達障害児の支援体制の特徴に関する研究;厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合事業 発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価 平成25年度 総括・分担研究報告所 pp257-297
- 2) Kim YS et al :Prevalence of autism spectrum disorder in a tortal population sample. Am J Psychiatry 168;904-912,2011

(多治見市 小1) 平成 26 年 4 月 1 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (受診した子どものみ)

診断された 年齢	① PDD (F84)															計
	IQ69 以下			IQ70 以上			知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下																
2 歳代					1:0											
3 歳代				4:0	1:0		1:0									
4 歳代				1:0												
5~6 歳代	2:1		1:0	3:1	1:0											
不明																
合計	3		1	9	3		1									
(男:女)	(2:1)	(:)	(1:0)	(8:1)	(3:0)	(:)	(1:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(15:2)

診断された 年齢	② 多動性障害 (F90 ; ①を除外)															計
	IQ69 以下			IQ70 以上			知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下																
2 歳代																
3 歳代																
4 歳代																
5~6 歳代				2:0												
不明																
合計				2												
(男:女)	(:)	(:)	(:)	(2:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(2:0)

診断された年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)										
	IQ69 以下		IQ70 以上		知的障害があると思われる		知的障害がないと思われる		知的障害の有無は不明		計
	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	重複なし	他の重複あり	
1 歳代以下											
2 歳代											
3 歳代									0 : 1		0 : 1
4 歳代									0 : 1		0 : 1
5~6 歳代			1 : 0						2 : 0		3 : 0
不明											
合計 (男女)	(:)	(:)	1 (1:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	4 (2:2)	(:)	5 (3:2)

診断された年齢	④ 精神遅滞 (F70~F79 ; ①②③を除外)			その他		計
	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)		
1 歳代以下						
2 歳代	1:0		1:0	神経症 1:0	ホーダー-IQ 1:0	2:0
3 歳代		1:0	1:0	AD/HD 外注 1:0		1:0
4 歳代	2:0		2:0	神経症 1:0		1:0
5~6 歳代	1:2		1:2	チリ 0:1		0:1
不明						
合計 (男女)	6 (4:2)	1 (1:0)	7 (5:2)			5 (4:1)

(4) 平成 26 年 4 月 1 日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (未受診例も含む)

- ① PDD とされる子ども [17]人 (男[15]人、女[2]人)
- ② ①以外で多動性障害とされる子ども [2]人 (男[2]人、女[0]人)
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害とされる子ども [5]人 (男[3]人、女[2]人)
- ④ ①②③以外で精神遅滞とされる子ども [7]人 (男[5]人、女[2]人)
- ⑤ その他の発達障害とされる子ども []人 (男[]人、女[]人)

(多治見市 小2) 平成26年4月2日現在、地域に居住する小学2年生の子どもの数(居住コホート)

(1) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数(受診した子どものみ)

診断され た年齢	① PDD (F84)																				計	
	IQ69以下			IQ70以上						知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明					
	重複なし	F90 あり	他の重複あ り	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90 あり	他の重複 あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代 以下									0:1													0:1
2歳代	0:1	2:0		3:1														0:1				5:3
3歳代	1:0			2:0																		3:0
4歳代				2:1	1:0																	3:1
5~6 歳代	1:0			5:2	2:0																	8:2
1年生	1:0				1:0		1:0										1:0					4:0
2~3年 生		1:0																				1:0
4~5年 生																						
不明																						
合計 (男女)	4 (3:1)	3 (3:0)	(:)	16 (12:4)	4 (4:0)	(:)	1 (1:0)	(:)	1 (0:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	2 (1:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	31 (24:7)

多動性障害 (F90:①を除く)

診断された年齢	多動性障害 (F90:①を除く)																				計	
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F80あり	他の重複あり	重複なし	F80あり		他の重複あり		重複なし	F80あり	他の重複あり	重複なし	F80あり		他の重複あり		重複なし	F80あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代以下																						1:0
2歳代																						0:1
3歳代	1:0																					4:1
4歳代	0:1																					1:1
5~6歳代	1:0			3:0													0:1					1:0
1年生				0:1													1:0					1:1
2~3年生				1:0																		1:0
4~5年生																						
不明																						
合計	3			5													2					10
(男女)	(2:1)	(:)	(:)	(4:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(1:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	(7:3)

診断された 年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80 ; ①②を除外)													計
	IQ69 以下		IQ70 以上			知的障害があると思われ る		知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			
	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下														
2 歳代														
3 歳代											1 : 0			1 : 0
4 歳代											1 : 0			1 : 0
5~6 歳代											2 : 2			2 : 2
1 年生														
2~3 年生														
4~5 年生														
不明														
合計											6			6
(男女)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(4:2)	(:)	(:)	(4:2)

診断された年齢	④ 学力の特異的発達障害 (F81 ; ①②③を除外)			⑤ 精神遅滞 (F70~F79 ; ①②③④を除外)			その他	
	重複なし	重複あり	計	重複なし	重複あり	計	内訳 (診断と人数)	計
1歳代以下				0:1		0:1		
2歳代				1:0		1:0		
3歳代				1:0		1:0	神経症 1:1 ホーダ-IQ 1:0	2:1
4歳代							神経症、不安 1:0 分離不安 1:0 神経症 1:0 ホーダ-IQ 1:0	4:0
5~6歳代				1:0		1:0	ホーダ-IQ 0:1 適応障害、チック 1:0 チック 1:0 吃音 1:0	3:1
1年生							チック(疑い) 1:0 夜尿 1:1	2:1
2-3年生								
4-5年生								
不明								
合計 (男:女)	(:)	(:)	(:)	4 (3:1)	(:)	4 (3:1)		14 (11:3)

(2) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数 (未受診例も含む)

- ① PDDと思われる子ども [31]人 (男[24]人、女[7]人)
- ② ①以外で多動性障害と思われる子ども [10]人 (男[7]人、女[3]人)
- ③ ①②以外で会話および言語の特異的発達障害と思われる子ども [6]人 (男[4]人、女[2]人)
- ④ ①②③以外で学力の特異的発達障害と思われる子ども [0]人 (男[0]人、女[0]人)
- ⑤ ①②③④以外で精神遅滞と思われる子ども [4]人 (男[3]人、女[1]人)
- ⑥ その他の発達障害と思われる子ども []人 (男[]人、女[]人)

(多治見市 小6) 平成26年4月2日現在、地域に居住する小学6年生の子どもの数(居住コホート)

(1) 平成26年4月2日時点での居住コホートに含まれる有病者数(受診した子どものみ)

診断され た年齢	① PDD (F84)																				計	
	IQ69以下			IQ70以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90 あり	他の重複あり	重複なし	F90あり		他の重複あり		重複なし	F90あり		他の重複あり		
					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり					重複なし	F81あり	重複なし	F81あり		重複なし	F81あり	重複なし		F81あり
1歳代 以下																						
2歳代				2:0																	2:0	
3歳代	1:1			2:0																	3:1	
4歳代	0:1			2:0	1:0																3:1	
5~6 歳代	1:0			3:0	2:0												1:0				7:0	
1年生				1:0	1:0																2:0	
2~3年 生				1:0	1:0																2:0	
4~5年 生																						
不明																						
合計	4			11	5																21	
(男女)	(2:2)	(:)	(:)	(11: 0)	(50)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(10)	(:)	(:)	(:)	(19:2)	

診断され た年齢	多動性障害 (F90:①を除外)																				計	
	IQ69 以下			IQ70 以上				知的障害があると思われる			知的障害がないと思われる				知的障害有無は不明							
	重複なし	F80 あり	他の重複あ り	重複なし	F80 あり		他の重複あり		重複なし	F80 あり	他の重複 あり	重複なし	F80 あり		他の重複あり		重複なし	F80 あり		他の重複あり		
					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり					重複なし	F81 あり	重複なし	F81 あり		重複なし	F81 あり	重複なし		F81 あり
1 歳代 以下																						
2 歳代																						
3 歳代																						
4 歳代																						
5~6 歳代				1:1																	1:1	
1 年生																						
2~3 年 生				1:0			1:0														2:0	
4~5 年 生																						
不明																						
合計 (男女)	(:)	(:)	(:)	3 (2:1)	(:)	(:)	1 (1:0)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	4 (3:1)	

診断された 年齢	③ 会話および言語の特異的発達障害 (F80; ①②を除外)													
	IQ69 以下		IQ70 以上			知的障害があると思われ る		知的障害がないと思われる			知的障害の有無は不明			計
	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	重複なし	F81 あり	他の重複 あり	
1 歳代以下														
2 歳代														
3 歳代														
4 歳代														
5~6 歳代			0:1											0:1
1 年生														
2~3 年生														
4~5 年生														
不明														
合計			1											1
(男女)	(:)	(:)	(0:1)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(:)	(0:1)